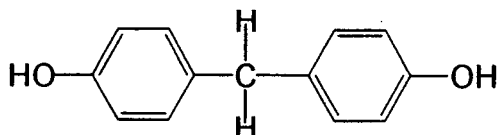
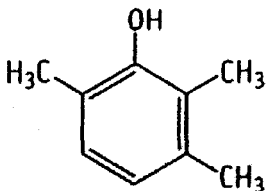


既存化学物質審査シート

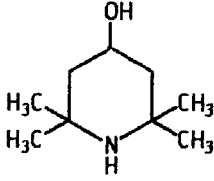
官報公示整理番号	7-903	CAS No.	1333-16-0
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：メチレンジフェノール（ビスフェノールF） 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 99.0%. 溶媒 (DMSO-溶解). (本試験 I、II) TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. -S9mix 群 : 1250 μg/plate (最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 1250 μg/plate (TA100, TA1535, TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 2500 μg/plate (TA98 : 最高用量で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (WP2 uvrA : 2500 μg/plate 以上で菌の生育阻害)		
染色体異常	陽性 D20=0.010 mg/mL (+S9mix 群 : 構造異常). ±S9mix 群で構造異常の誘発. 純度 99.0%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 2.0 mg/mL (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 0.18 mg/mL (細胞毒性のため 0.09 mg/mL まで観察) +S9mix 群 : 0.018 mg/mL (細胞毒性のため 0.009 mg/mL まで観察) 24 時間処理群 : 0.12 mg/mL (細胞毒性のため 0.06 mg/mL まで観察)		
28 日間反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 0.1% Tween80 添加 0.5% CMC-Na 水溶液	
	純度	99.0 %	
	用量	4 投与群 (8, 40, 200, 1000 mg/kg)	
	死亡	1000 ♀ (1/12)	
	NOEL	8 mg/kg/day	
	推定根拠	血液生化学的検査 (Cho ↓ : 40 以上 ♀・1000 ♂)	
	他の毒性	体重 ↓ : 1000 ♂ 血液生化学的検査 (γ-GTP ↑・Glu ↓ : 1000 ♀) 絶対重量 (肝 ↑ : 1000 ♀) 相対重量 (肝 ↑ : 200 以上 ♀・1000 ♂、副腎 ↑ : 200 以上 ♀) 組織学的所見 (胃-前胃粘膜過形成・境界縁過形成・前胃潰瘍 : 1000 ♀ ♂、 肝-小葉中心性肝細胞肥大 : 200 以上 ♀ ♂)	
回復性	肝重量 ↑、副腎重量 ↑、肝-小葉中心性肝細胞肥大		
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陰性であるが、染色体異常試験は陽性、NOEL 8 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。		
備考			

既存化学物質審査シート

官報公示整理番号	9-899	CAS No.	2416-94-6
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：2, 3, 6-トリメチルフェノール 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 99.67%. 溶媒 (DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I, II) -S9mix 群：1250 μg/plate (TA100, TA1535：625 μg/plate 以上で菌の生育阻害) TA98, TA1537, WP2 uvrA：最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群：1250 μg/plate (TA100, TA1535：625 μg/plate 以上で菌の生育阻害) TA98, TA1537, WP2 uvrA：最高用量で菌の生育阻害)		
染色体異常	陽性 D20=0.053 mg/mL (48 時間処理群：構造異常) ±S9mix 処理群及び 48 時間処理群で構造異常の誘発。 純度 99.67%. 溶媒 (アセトン-溶解). CHL/IU. 0.5 mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 (本試験) -S9mix 群：0.2 mg/mL +S9mix 群：0.2 mg/mL 24 時間処理群：0.2 mg/mL (細胞毒性のため 0.1mg/mL まで観察) 48 時間処理群：0.2 mg/mL (50%以上細胞分裂指数抑制濃度) (確認試験) 24 時間処理群：0.2 mg/mL (細胞毒性のため 0.1mg/mL まで観察) 48 時間処理群：0.2 mg/mL (50%以上細胞分裂指数抑制濃度)		
28 日間反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油	
	純度	99.67%	
	用量	3 投与群 (100, 300, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	1000 ♀ (2/10) (投与過誤による)	
	NOEL	100 mg/kg/day	
推定根拠	血液生化学的検査 (Pi ↑ : 300 以上 ♂)		

	他の毒性	体重↓：1000♀♂ 一般状態（歩行失調また腹臥位：1000♀♂） 尿検査（尿量↑：1000♂、尿pH↓：1000♀、尿中Bil↑：1000♀♂） 血液学的検査（RBC↓・Hgb↓・Hct↓：1000♀） 血液生化学的検査（Alb↓：1000♂） 絶対重量（脾↑：1000♀） 相対重量（脾↑・肝↑：1000♀） 組織学的検査（肝－小葉中心性肝細胞肥大：1000♀♂） 脾－髓外造血：1000♀ 脾－ヘモジリデン沈着，静脈洞拡張：1000♀♂ 胃－前胃の扁平上皮びまん性過形成：1000♀♂
	回復性	脾重量↑、組織学的検査（胃－前胃の扁平上皮びまん性過形成）
人健康影響 判定根拠	Ames試験は陰性であるが、染色体異常試験は陽性、NOEL 100 mg/kg/day（回復性の悪い病理組織学的所見がみとめられる）であることから第二種監視化学物質相当。	
備考		

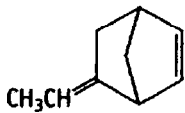
既存化学物質審査シート

官報公示整理番号	5-776	CAS No.	2403-88-5
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。		
名称 構造式等	名称：2, 2, 6, 6-テトラメチル-4-ヒドロキシピペリジン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 99.8%. 溶媒 (注射用水-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I、II) -S9mix 群 : 5000 μ g/plate (TA98, TA100, TA1537 : 2500 μ g/plate 以上で菌の生育阻害 TA1535, WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 5000 μ g/plate (TA100, TA1537 : 2500 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) TA98, TA1535, WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害)		
染色体異常	陽性 D20=2.3mg/mL (-S9mix 群 : 構造異常). -S9mix 群で構造異常の誘発. 純度 99.8%. 溶媒 (局方生理食塩液-溶解). CHL/IU. 5.0mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 0.8mg/mL +S9mix 群 : 0.8mg/mL 24 時間処理群 : 0.8mg/mL (50%以上細胞分裂指数抑制濃度) 48 時間処理群 : 0.8mg/mL (50%以上細胞分裂指数抑制濃度) (追加試験 I, II, III) -S9mix 群 : 1.2mg/mL -S9mix 群 : 2.0mg/mL (50%以上細胞分裂指数抑制濃度) -S9mix 群 : 2.0mg/mL		
反復経口投与 毒性・生殖発 生毒性併合試 験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 注射用蒸留水	
	純度	99.8%	
	用量	3 投与群 (60, 200, 600mg/kg).	
	死亡	60♀ (1/12), 600♂ (3/12), 600♀ (1/12)	
NOEL	反復投与毒性 : 60 mg/kg/day 未満 生殖発生毒性 : 200 mg/kg/day		

	推定根拠	<p>反復投与毒性： 一般状態（眼瞼下垂・散瞳：60以上♀♂） 生殖発生毒性： 性周期延長：600♀ 生後0日児体重↓：600♀♂</p>
	他の毒性	<p>体重↓：200以上♀♂ 摂餌量↑：600♀♂ 一般状態（自発運動の低下：600♂♀） 相対重量（肝↑：600♀，副腎↑：600♀♂） （死亡例） 組織学的所見 （腎—尿細管上皮空胞変性・壊死・好塩基性化：600♂♀、 腎—硝子円柱：600♂、脾臓・唾液腺—空胞変性：600♂♀、 骨髄—造血低下：600♀♂ 胃—潰瘍：600♂）</p>
	回復性	実施せず
人健康影響 判定根拠	Ames 試験陰性、染色体異常試験は軽微な陽性であるも、NOEL60mg/kg/day 未満であり、神経行動毒性がみとめられ、腎臓及び脾臓に重篤な組織学的所見がみとめられることから第二種監視化学物質相当。	
藻類生長阻 害	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 42、76、140、250、440、800 mg/L 実測濃度 42、74、140、240、440、730 mg/L（幾何平均値） 助剤： なし 0-72hErC50（設定値に基づく）=120 mg/L 0-72hNOECr（設定値に基づく）=76 mg/L</p>	
ミジンコ急 性遊泳阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 11、19、34、62、110、200 mg/L 実測濃度 11、19、34、62、110、200 mg/L（幾何平均値） 助剤： なし 48hEiC50（設定値に基づく）=100 mg/L</p>	
ミジンコ繁 殖阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、週に3回換水 試験濃度： 設定濃度 3.7、6.7、12、22、39、70 mg/L 実測濃度 3.7、6.3、11、20、37、67 mg/L（時間加重平均値） 助剤： なし 21dNOEC（設定値に基づく）=3.7 mg/L</p>	

魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG20</p> <p>3</p> <p>試験方式：半止水式、24時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 9.5、17、31、56、100、100 mg/L* 実測濃度 9.3、16、32、56、100、100 mg/L* (幾何平均値) *：pH調整を行ったもの</p> <p>助剤：なし</p> <p>96hLC50 (設定値に基づく) >100 mg/L (pH調整した場合>100 mg/L) また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 pH調整した100 mg/L群：異常遊泳 (72hr 1/10)</p>
他の毒性情報	<p>[SIAR (OECD/HPVプログラム) より引用]</p> <p>藻類に対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Pseudokirchneriella subspicatus</i> 96hEC50=158mg/L、72hNOEC=10 mg/L <p>魚類に対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Danio rerio</i> 96hLC50>1000 mg/L
生態影響判定根拠	<p>3種の急性毒性試験から得られる最も低い毒性値が48hEiC50=100mg/L (ミジンコ急性遊泳阻害試験) であり、かつミジンコ繁殖阻害試験において21dNOEC=3.7mg/L であることから、第三種監視化学物質相当でない。</p>
備考	

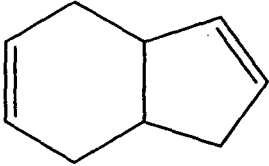
既存化学物質審査シート

官報公示整理番号	4-602	CAS No.	16219-75-3
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：5-エチリデン-2-ノルボルネン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 99.4%. 溶媒 (DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 (本試験 I、II) -S9mix 群：125 μg/plate (TA1535, TA1537 : 62.5 μg/plate で菌の生育阻害 250 μg/plate (TA98, TA100, WP2 uvrA : 125 μg/plate で菌の生育阻害) +S9mix 群：250 μg/plate (TA100, TA1535 : 125 μg/plate で菌の生育阻害 TA98 : 最高用量で菌の生育阻害) 500 μg/plate (TA1537 : 250 μg/plate で菌の生育阻害 WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害)		
染色体異常	陰性 純度 99.4%. 溶媒 (アセトン-溶解). CHL/IU. 1.2mg/mL (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 -S9mix 群：0.1mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) +S9mix 群：0.2mg/mL (細胞毒性のため 0.1mg/mL まで観察) 24 時間処理群：0.2mg/mL (細胞毒性のため 0.05mg/mL まで観察) 48 時間処理群：0.2mg/mL (細胞毒性のため 0.05mg/mL まで観察)		
28 日間反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油	
	純度	99.4%	
	用量	3 投与群 (4, 20, 100mg/kg/day) .	
	死亡	100♂ (2/14)	
	NOEL	4 mg/kg/day 未満	
	推定根拠	病理組織学的所見 (腎-近位尿細管上皮の硝子滴：4 以上♂)	
他の毒性	体重↓：100♀♂ 尿タンパク↑：100♀♂ 血液学的検査 (WBC↑：100♂) 血液生化学的検査 (Gluc↓：100♀、) 相対重量 (腎↑：100♀♂、胸腺↑：100♀) 病理組織学的検査 (腎-近位尿細管上皮の好酸性小体：20 以上♂ 甲状腺-濾胞細胞の肥大・コロイドの減少：100♂♀)		

	回復性	腎一近位尿細管上皮の硝子滴・好酸性小体
簡易生殖	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油
	純度	99.5%
	用量	3投与群(4, 20, 100mg/kg/day)
	死亡	100♂(2/12)
	NOEL	反復投与：20mg/kg/day 生殖発生毒性：20mg/kg/day
	推定根拠	反復投与： 体重↓(100♂♀) 摂餌量↓(100♂♀) 相対重量(肝↑：100♂) 病理組織学的所見(肝一小葉中心性肝細胞肥大・肝細胞空胞化：100♂) 生殖発生毒性： 生後4日生存児数↓・妊娠期間延長・総出産児数↓・着床率↓・分娩率↓： 100
	他の毒性	—
回復性	実施せず	
人健康影響 判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL4mg/kg/day 未満であることから第二種監視化学物質相当	
藻類生長阻 害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：OECD-TG201 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 4.0、6.8、12、20、33 mg/L 実測濃度 0.85、1.4、2.5、4.1、6.8 mg/L (初期実測値) 助剤：HCO-40 100mg/L 0-72hErC50 (実測値に基づく) =4.9 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =0.78 mg/L	
ミジンコ急 性遊泳阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 試験方式：止水式 試験濃度：設定濃度 0.48、0.86、1.5、2.8、5.0 mg/L 実測濃度 0.41、0.76、1.3、2.4、4.2 mg/L (時間加重平均値) 助剤：HCO-40 25 mg/L 48hEiC50 (設定値に基づく) =3.3 mg/L	
ミジンコ繁 殖阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG211 試験方式：半止水式、24時間毎に換水 試験濃度：設定濃度 0.38、0.65、1.1、1.9、3.2 mg/L 実測濃度 0.31、0.52、0.89、1.5、2.6 mg/L (時間加重平均値) 助剤：HCO-40 16mg/L 21dNOEC (実測値に基づく) =1.5 mg/L	

魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、8時間目と16時間目に換水 物質濃度：設定濃度 5.2、7.3、10、14、20 mg/L 実測濃度 4.4、6.2、8.5、12、16 mg/L (時間加重平均値) 助剤：HCO-40 100 mg/L 96hLC50 (実測値に基づく) =7.0 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 4.4 mg/L 群：異常行動 (24hr、48hr、72hr、96hr) 6.2 mg/L 群：異常行動 (24hr、48hr、72hr、96hr)</p>
他の毒性情報	<p>[SIAR (OECD/HPV プログラム) より引用]</p> <p>藻類に対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 0-96hEbC50=3.68 mg/L <p>ミジンコに対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Daphnia magna</i> 48hEC50=7.3 mg/L <p>魚類に対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Danio rerio</i> 96hLC50 =7.6 mg/L
生態影響判定根拠	魚類急性毒性試験において96hLC50=7.0mg/Lであることから、第三種監視化学物質相当。
備考	

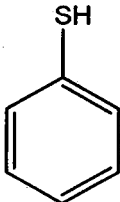
既存化学物質審査シート

官報公示整理番号	4-581	CAS No.	3048-65-5
判定結果	人健康影響 保留 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称: 3a, 4, 7, 7a-テトラヒドロ-1H-インデン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 99.0%. 溶媒 (DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 µg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 (本試験 I) -S9mix 群: 125 µg/plate (TA1535, TA1537: 62.5 µg/plate 以上で菌の生育阻害) 250 µg/plate (TA98, TA100, WP2 uvrA : 125 µg/plate 以上で菌の生育阻害) +S9mix 群: 250 µg/plate (TA1535: 125 µg/plate 以上で菌の生育阻害 TA1537: 最高用量で菌の生育阻害) 500 µg/plate (TA98, TA100, WP2 uvrA : 250 µg/plate 以上で菌の生育阻害) (本試験 II) -S9mix 群: 125 µg/plate (TA1535, TA1537: 最高用量で菌の生育阻害) 250 µg/plate (TA98, TA100, WP2 uvrA : 125 µg/plate 以上で菌の生育阻害) +S9mix 群: 250 µg/plate (TA1535, TA1537: 最高用量で菌の生育阻害) 500 µg/plate (TA98, TA100, WP2 uvrA : 250 µg/plate 以上で菌の生育阻害)		
染色体異常	陽性 D20 値=0.16mg/mL (+S9mix: 構造異常) +S9mix 群で構造異常の誘発 純度 99.0%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 0.4mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 -S9mix 群: 0.10mg/mL (細胞毒性のため 0.050mg/mL まで観察) +S9mix 群: 0.20mg/mL (細胞毒性のため 0.10 mg/mL まで観察) 24 時間処理群: 0.10mg/mL (細胞毒性のため 0.050 mg/mL まで観察) 48 時間処理群: 0.10mg/mL (細胞毒性のため 0.050 mg/mL まで観察)		
反復経口投与 毒性・生殖発 生毒性併合試 験	投与方法	強制経口投与 溶媒: オリーブ油	
	純度	99.0%	
	用量	3 投与群 (67, 200, 600mg/kg)	
	死亡	-	

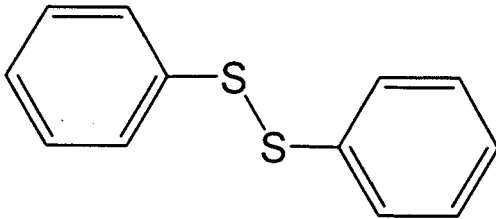
(ReproTox)	NOEL	反復投与：67 mg/kg/day 未満 生殖発生毒性：200 mg/kg/day
	推定根拠	反復投与 相対重量(腎↑：67以上♂，600♀) 病理組織学的所見(腎-近位尿細管上皮硝子滴沈着・好酸性小体：67以上♂) 生殖発生毒性 総出産児数↓：600、生児分娩率↓：600、生後0日及び4日生存児数↓：600、 黄体数↓・着床数↓：600
	他の毒性	反復投与毒性 体重↓(200以上♀♂) 血液学的検査(RBC↓・Hb↓・Hct↓：600♂) 絶対重量(肝↑：600♀、腎↑：200以上♂・600♀) 相対重量(肝↑：200以上♀・600♂) 病理組織学的所見(肝-小葉中心性肝細胞肥大：600♀♂、 腎臓-尿細管上皮の再生：200以上♂)
	回復性	実施せず
人健康影響 判定根拠	「Ames試験陰性、染色体異常試験は軽微な陽性であるも、NOEL67mg/kg/day 未満であることから第二種監視化学物質」という事務局案であったが、現時点での毒性情報だけでは第二種監視化学物質に該当するかどうか判断できないため、追加の毒性情報の収集を行い、再度審議することとされた。	
藻類生長阻 害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 (密閉系) 試験濃度： 設定濃度 0.80、1.6、3.2、6.4、10、16、24 mg/L 実測濃度 0.31、0.65、1.3、2.7、4.2、7.1、11 mg/L (幾何平均値) 助剤： DMF 及び HCO-30 (25:8) 99 mg/L 0-72hErC50 (実測値に基づく) =7.0 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =0.65 mg/L	
ミジンコ急 性遊泳阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.50、0.75、1.1、1.7、2.5 mg/L 実測濃度 0.38、0.54、0.75、1.2、1.6 mg/L (幾何平均値) 助剤： 2-メトキシエタノール及び HCO-30 (1:1) 75 mg/L 48hEiC50 (実測値に基づく) =0.73 mg/L	
ミジンコ繁 殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、週に3回(16日まで)、24時間毎(16日以降)換水 試験濃度： 設定濃度 0.020、0.055、0.15、0.40、1.0 mg/L 実測濃度 0.018、0.048、0.12、0.35、0.85 mg/L (時間加重平均値) 助剤： DMF 及び HCO-60 (1:1) 30 mg/L 21dNOEC (実測値に基づく) =0.12 mg/L	

魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 2.0、4.0、8.0、16、32 mg/L 実測濃度 1.6、3.1、6.4、13、28 mg/L (幾何平均値) 助剤：メチルセロソルブ及びHCO-30 (1:2) 96 mg/L (最高濃度) 96hLC50 (実測値に基づく) =4.4 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 1.6 mg/L 群：異常遊泳 (72hr 2/10、96hr 1/9) 3.1 mg/L 群：異常遊泳 (72hr 5/10、96hr 6/10)</p>
生態影響判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.73mg/L かつ魚類急性毒性試験において 96hLC50=4.4mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
備考	

既存化学物質審査シート

官報公示整理番号	3-1092	CAS No.	108-98-5
判定結果	総合判定 人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：ベンゼンチオール <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影響 判定根拠	変化物が第二種監視化学物質であることから、総合判定として第二種監視化学物質相当。		
生態影響 判定根拠	変化物が第三種監視化学物質であることから、総合判定として第三種監視化学物質相当。		
備考	変化物あり		

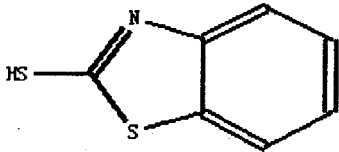
既存化学物質審査シート

官報公示整理番号	3-1124 (3-1092 ベンゼンチオールの変化物)	CAS No.	882-33-7
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：ジフェニルジスルフィド 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 99.8%. 溶媒 (DMSO-溶解) . TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA/pKM101. 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 (本試験 I) -S9mix 群： 9.77 μg/plate (TA100, TA1535 : 4.88 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 19.5 μg/plate (TA98, TA1537 : 9.77 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 2500 μg/plate (WP2 uvrA : 625 μg/plate 以上で菌の生育阻害) +S9mix 群： 78.1 μg/plate (TA100, TA1535 : 最高用量で菌の生育阻害) 156 μg/plate (TA98, TA1537 : 78.1 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (WP2 uvrA : 2500 μg/plate 以上で菌の生育阻害) (本試験 II) -S9mix 群： 9.77 μg/plate (TA100, TA1535 : 4.88 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 19.5 μg/plate (TA98, TA1537 : 9.77 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 2500 μg/plate (WP2 uvrA : 625 μg/plate 以上で菌の生育阻害) +S9mix 群： 78.1 μg/plate (TA100, TA1535 : 最高用量で菌の生育阻害) 156 μg/plate (TA98, TA1537 : 78.1 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (WP2 uvrA : 2500 μg/plate 以上で菌の生育阻害)		
染色体異常	陰性 純度 99.7%以上. 溶媒 (DMSO-溶解) . 細胞名 : CHL/IU ±S9mix 群については 0.200mg/mL (10mM)、24 時間処理群については 0.050mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験結果を参考に以下の濃度まで実施。 -S9mix 群 : 0.025mg/ mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) +S9mix 群 : 0.030mg/ mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) 24 時間処理群 : 0.025mg/ mL (50%以上細胞増殖抑制濃度)		
反復経口投与	投与方法	強制経口投与	溶媒 : 0.5% トリガンソ水溶液

毒性・生殖発生毒性併合試験(ReproTox)	純度	99.8%
	用量	3投与群(1, 6, 30 mg/kg/day)
	死亡	急性毒性 2000 : ♀3/6 予備試験 1000 : ♂3/3 ♀3/3, 300 : ♂3/3 ♀3/3
	NOEL	反復投与 : <1 mg/kg/day 生殖発生毒性 : 30mg/kg/day
	推定根拠	反復投与毒性 : 組織学的検査(腎-好塩基性近位尿細管・近位尿細管上皮硝子滴 : 1以上♂、) 生殖発生毒性 : 特に毒性学的影響は認められていない。
	他の毒性	一般状態(分娩困難 : 30♀) 血液形態学的検査(RBC↓ : 30♂♀、HGB↓・RET↑ : 30♂) 血液生化学的検査(GLU↓ : 30♂、CHO↑ : 30♂♀、TP↑・ALB↑ : 30♀) 絶対重量(肝↑ : 30♂♀、脾↑ : 30♀、腎↑ : 6以上♂) 相対重量(肝↑ : 30♂♀、脾↑ : 30♀、腎↑ : 6以上♂・30♀) 組織学的検査(肝-小葉中心性肝細胞肥大 : 6以上♂・30♀、 脾-赤血球系髓外造血 : 30♀、脾-ヘモジリン沈着 : 30♂、 骨髄-赤血球系造血細胞増加 : 6以上♀ 腎-尿細管上皮ホフスチン沈着 : 6以上♀ 甲状腺-ろ胞上皮細胞肥大 : 30♂)
回復性	RBC↓・HGB↓・RET↑、CHO↑、脾↑・腎↑、腎-好塩基性近位尿細管	
人健康影響判定根拠	Ames試験及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL 1 mg/kg/day未満であることから第二種監視化学物質相当	
藻類生長阻害	生物種 : <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法 : OECD-TG201 培養方式 : 振とう培養 試験濃度 : 設定濃度 0.050, 0.071, 0.10, 0.14, 0.20 mg/L 実測濃度 0.040, 0.062, 0.080, 0.11, 0.16 mg/L (0hr) -※、-※、-※、-※、0.0022 mg/L (72hr) ※ 検出限界 (0.00006 mg/L) 未満 助剤 : DMF 100 μL/L 0-72hErC50 (実測値に基づく) >0.019 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =0.019 mg/L (試験上限濃度では影響が認められなかった。)	
ミジンコ急性遊泳阻害	生物種 : オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法 : OECD-TG202 試験方式 : 半止水式、24時間毎に換水 試験濃度 : 設定濃度 0.0020, 0.0036, 0.0064, 0.011, 0.020 mg/L 実測濃度 0.0013, 0.0024, 0.0044, 0.0074, 0.014 mg/L (幾何平均値) 助剤 : DMF 100 μL/L 48hEiC50 (実測値に基づく) =0.0085 mg/L	

ミジンコ繁殖阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG211 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度：設定濃度 0.010、0.021、0.045、0.095、0.20 mg/L 実測濃度 0.0034、0.0079、0.019、0.044、0.097 mg/L (時間加重平均値) 助剤：DMF 100 μL/L 21dNOEC (実測値に基づく) =0.0079 mg/L</p>				
魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 0.020、0.036、0.064、0.11、0.20 mg/L 実測濃度 0.012、0.023、0.042、0.080、0.15 mg/L (幾何平均値) 助剤：DMF 100 μL/L 96hLC50 (実測値に基づく) =0.058 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.042 mg/L 群：異常遊泳 (動作の緩慢) (96hr 1/10) 表層遊泳 (96hr 1/10)</p>				
生態影響判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.0085mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.0079mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.058mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S58	0/30	—	0.1 (μg/L)
	底質	S58	0/30	—	0.005~0.024 (μg/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	<p>※1 S59 版「化学物質と環境」 (環境省環境保健部安全課)</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示整理番号	5-242 5-243	CAS No.	149-30-4
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：2-メルカプトベンゾチアゾール 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
その他の毒性情報	[National Toxicology Program Technical Report Series No. 332(1988)より引用] 変異原性 Ames 試験 (TA1535, TA1537, TA100, TA98) : 陰性 純度記載なし - (With and without metabolic activation) 染色体異常試験 (CHO cells) : 陽性 純度記載なし + (With metabolic activation) - (Without metabolic activation) マウスリンフォーマ TK 試験 : 陽性 純度記載なし + (With metabolic activation) - (Without metabolic activation) 反復投与毒性 B6C3F ₁ マウス (188, 375, 750, 1500, mg/kg/day(強制経口投与)) 13 週間 純度 96% 1500(死亡: ♂♀ [半数以上]) 750 以上(流涙・流涎・間代性痙攣) 375 以上(嗜眠) F344/N ラット (188, 375, 750, 1500 mg/kg(強制経口投与)) 13 週間 純度 96% 750 以上♀・1500♂(体重↓) 188 以上♀・1500♂(肝腫大) 発がん性 B6C3F ₁ マウス (375, 750 mg/kg/day (強制経口投与)) 2 年間 純度 96%以上 750♀(生存率↓) 腫瘍性病変(肝-肝細胞腺腫/癌腫) F344/N ラット (♂: 375, 750 mg/kg ♀: 188, 375 mg/kg(強制経口投与)) 2 年間 純度 96%以上 375 以上♂(生存率↓) 非腫瘍性病変(腎症: ♂、前胃-潰瘍/炎症: ♂♀、前胃-上皮過形成・過角化: ♂) 腫瘍性病変(血液-単核球性白血病: ♂、膵臓-腺房細胞腺腫: ♂、下垂体-腺腫: ♀、包皮腺-腺腫/癌腫: ♂、副腎-褐色細胞腫: ♂♀) ※NTP では 2-メルカプトベンゾチアゾールの発がん性については以下のとおり評価している。 F344/N rat♂: some evidence of carcinogenic activity (血液-単核球性白血病,		

	<p>膵臓-腺房細胞腺腫, 副腎-褐色細胞腫, 包皮腺-腺腫/癌腫) F344/N rat♀: some evidence of carcinogenic activity(副腎-褐色細胞腫, 下垂体-腺腫) B6C3F1 mice♂:no evidence of carcinogenic activity B6C3F1 mice♀:equivocal evidence of carcinogenic activity(肝-肝細胞腺腫/癌腫) [小川ら:衛生試験所報告 107, 44(1989)より引用] 反復投与毒性 ddY マウス (30, 120, 480, 1920ppm(混餌投与)) 20月間 480以上(腎間質-細胞浸潤) 1920(体重↓)</p>
人健康影響判定根拠	<p>がん原性試験において発がん性が認められた知見があり、継続的に摂取される場合人の健康を損なうおそれの疑いがあるため、第二種監視化学物質相当</p>
藻類生長阻害	<p>生物種: <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法: OECD-TG201 培養方式: 振とう培養 試験濃度: 設定濃度 0.004, 0.008, 0.02, 0.04, 0.08, 0.17, 0.36, 0.76*, 1.6*mg/L 実測濃度 0.003, 0.008, 0.020, 0.038, 0.074, 0.163, 0.348, 0.61*, 1.4*mg/L (0h) -*, -*, -*, 0.005, 0.013, 0.027, 0.073, 0.12*, 0.35*mg/L (72h) ※ 検出限界 (0.002 mg/L) 未満、★追加試験 助剤: HCO-50 100 mg/L 0-72hErC50 (実測値に基づく) =0.50 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =0.066 mg/L</p>
ミジンコ急性遊泳阻害	<p>生物種: オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法: OECD-TG202 試験方式: 止水式 試験濃度: 設定濃度 0.04, 0.08, 0.14, 0.26, 0.46, 0.83, 1.5 mg/L 実測濃度 0.03, 0.07, 0.12, 0.23, 0.43, 0.71, 1.4 mg/L (幾何平均値) 助剤: HCO-50 100 mg/L 48hEiC50 (実測値に基づく) =0.71 mg/L</p>
ミジンコ繁殖阻害	<p>生物種: オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法: OECD-TG211 試験方式: 半止水式、週に3回換水 試験濃度: 設定濃度 0.04, 0.08, 0.14, 0.25, 0.44, 0.80 mg/L 実測濃度 <0.02, 0.04, 0.08, 0.18, 0.35, 0.68 mg/L (時間加重平均値) 助剤: HCO-50 100 mg/L 21dNOEC (実測値に基づく) =0.08 mg/L</p>

魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 0.38、0.69、1.2、2.2、4.0 mg/L 実測濃度 0.14、0.26、0.62、1.3、2.8 mg/L（幾何平均値） 助剤：HCO-50 100 mg/L 96hLC50（実測値に基づく）>2.8 mg/L</p> <p>また、最高濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 2.8 mg/L 群：異常遊泳（72hr 2/10） 遊泳不能（96hr 1/8）</p>				
生態影響判定根拠	<p>藻類生長阻害試験において 0-72hNOECr=0.066mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.71mg/L 及びミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.08mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S52	3/12	0.011~0.021	—~0.1 (μg/L)
		S53	0/117	—	0.01~10 (μg/L)
	底質	S52	2/12	0.0021~0.037	0.0009~0.02 (μg/g-dry)
		S53	3/111	0.046~0.058	0.002~1.2 (μg/g-dry)
	魚類	S53	0/90	—	0.002~1 (μg/g-wet)
備考	<p>※1 S53、S54 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部安全課）</p>				